



心技体が揃ってこそ、そして「知徳体」のバランス

校長 橋本 滋

新緑の美しい季節となり、桜の若葉の瑞々しさや校庭の柳が薫風にゆるやかになびきながら、元気に遊ぶ子どもたちを見守っています。きらきらした若葉のような1年生も入学から1か月余りが経ち、先生や友達と元気に過ごしています。6年生も学校のリーダーとして力を発揮し始めています。新しい学級でのスタートが順調に切れたように思います。

今月の下旬には運動会が開催されます。大型連休明けにはそろそろ練習が始まります。よい動きを見せることや運動会の日に力を発揮するためには、「気持ち、体、動き」この3つのバランスが大切となります。いわゆる「心技体」が揃うことで、パフォーマンスが上がります。この「心技体」について、このような記述がありました。まず「心」について、「心が豊かであれば、体は洗練されていき、技に磨きがかかる」次の「技」については、「技を磨きあげれば、心が豊かに育ち、体も洗練されていく」そして「体」については、「体を鍛錬すればこそ、技は我が身に染まり、心が豊かに安定する」要するに、それぞれが相互に関連しているということです。金メダル間違いなしと言われていた選手が、試合当日、思うように力が発揮できず不本意な結果に終わってしまうことはままあることです。そうならないように、選手によってはメンタルトレーナーを雇ったり、座禅を組んで心を練ったりするとの話も聞きます。

また、これとは逆の場合もあります。スポーツ界で聞く言葉に「すでに肉体の限界を超えている」とか「精神力だけで戦っている」や「ゾーンに入っている」などがあります。そして、その姿に感動したり、賞賛を送ったりします。そして、「最後はやっぱり心の強さだ」と思ったり「心を支えているのは普段の練習なのだろうな」などと思ったりします。そのことと関係してすぐに浮かぶのが稀勢の里の逆転優勝ではないでしょうか。「心技体」の内、体の不具合を心と技で補って優勝したのだと思います。

学校教育においても、この「心技体」にあたるものがあります。それは、「知徳体」と言われるものです。これにさいたま市では、コミュニケーション（豊かなかかわり合い）を加えた4つが示されています。学校・家庭・地域・行政が連携・協力して「知徳体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくんでいきます。「〇〇さえできればいい」というのでは、将来子どもたちが社会に出た時に、子どもたち自身が大きな壁に当たってしまうのではないのでしょうか。例えば、いくら難関大学、有名大学を卒業して有名企業に就職しても、人づきあい、お客様と商談ができず、離職してしまう人がかなりいると聞きます。また、「イチロー」や「中田英俊」のように、「将来野球選手、サッカー選手になる。」と決め、努力することはいいことだと思いますが、勉強をしなくていいことにはならないと思います。むしろ将来、海外に渡るかもしれないことを予想して、日本の国のことや英語などを積極的に学ぶ方が理にかなっていると思います。（イチロー、中田とも勉強もできた。）

このことに加え、子どもたちにとって「学校が楽しい」は、勉強が分かることと同じくらいに、「友だちと仲よくできる」「友だちと遊べる」ことがアンケートの上位にランキングされています。

子どもは心と体のバランス、そして勉強や運動などの活動など、いろいろなことが相まって成長していきます。子どもは子どもなりの悩みがあるものです。何かお子さんのことでご心配なことがあればいつでもご相談ください。学校と家庭が子どもを乗せる車の両輪となり、進んでいきたいと思えます。

